

主イエス・キリストを着なさい

「13:14 主イエス・キリストを着なさい。肉の欲のために心を用いてはいけません。」

皆さん、おはようございます。今日も皆さんにお会いできてうれしいです。先月は、私のお気に入り聖句、ピリピ 2 章の前半を紹介し、「キリスト・イエスの心を持ちなさい」という題でお話しました。この聖句には、三位一体・第二位の神であられる御子が、神の特権を捨て、人間の肉という形でこの地上に来られたことが描写されています。私はこれを、御子である神が王の衣を脱いで、しもべの衣を身につける姿として描写するのが好きです。私たち人間を救い、創造主との関係を回復させる計画の一環として、御子が肉を身につけることによって、ご自身を謙遜にされたのです。そして私たちはこの箇所、キリストの心、すなわち謙遜と奉仕の心を持つようにと勧められました。

今日のメッセージでは、その関連テーマをお話ししましょう。先月、キリストが神の特権である王衣を脱ぐ部分を見ました。今日は、着る部分を見ていきます。私たち自身が新しい衣を着る部分です。私たちイエスに従う者は「主イエス・キリストを着る」べき（今日のメッセージのタイトルです）という勧めを新約聖書の書簡から見ていきます。「主イエス・キリストを着る」..新しい服を着るようなイメージです。今日は、新しい衣服、衣装を身につけるというテーマを見ていきましょう。いくつか聖句を紹介します。

ガラテヤ 3:27 「バプテスマを受けてキリストにつく者とされたあなたがたはみな、キリストをその身に着たのです。」

ローマ 13:14 「主イエス・キリストを着なさい。肉の欲のために心を用いてはいけません。」

英語の NIV 訳ではこの両方の節に「私たちはキリストを『身にまとった』」とあります。新しい衣服と新しいアイデンティティを手に入れたのです。私はこの新しい服を着る、イエス・キリストを着るというイメージが大好きです。私たちは今や、キリストと同一化するのです。

「クリスチャン」という言葉の意味をご存知ですか？それは「小さなキリスト」という意味で、この言葉が最初に使われたのは使徒 11:26 です。パウロとバルナバはアンティオケの町で新しい弟子たちに一年間教え、その間弟子たちはキリストを反映するべく生活において一致していたため、「小さなキリスト」、つまりクリスチャンと呼ばれたのです。

皆さんはどうですか？行動や生活態度、言葉遣いから、あなたがイエス・キリストの弟子であることが人々にわかるほどにキリストの衣をまとっているのでしょうか？これは私たちが努力していくべき目標です。イエス・キリストを衣のように着ること、それは私自身も持っていたいイメージです。そしてこのイメージを持つことが、毎日クリスチャンとして忠実に歩むことを助けてくれます。

もう二つの聖句を紹介します。

エペソ 4:24 「4:24 真理に基づく義と聖をもって神にかたどり造り出された、新しい人を身につけるべきことでした。」

ここでは「新しい人を身に着る」とあります。私たちは古い自分を捨て、新しいアイデンティティを身につけたのです。実は、これは人類が罪に堕ちる前の、神に似せて創造された（創世記1：26-27）被造物としての本来の姿に戻ることにあります。キリストにある新しい被造物として、私たちと創造主との関係は回復されました。

エペソ 4:24 「真理に基づく義と聖をもって神にかたどり造り出された、新しい人を身に着るべきことでした。」

コロサイ 3:10 「3:10 新しい人を着たのです。新しい人は、造り主のかたちに似せられてますます新しくされ、真の知識に至るのです。」繰り返しになりますが、私たちは新しい人を着て、新しくされたいのちを生きます。新しいいのちです。

今日は、この4つの節を詳しく見ていきたいと思えます。それぞれについて、より広い文脈を見ていきましょう。全体を見れば、ポジティブ面とネガティブ面の両方の特徴があると分かるでしょう。ネガティブ面とは、私たちが新しい自分を身につけるために古いのちを捨てる時、捨て去らなければならない醜さと罪のすべてのことです。

ローマ 13に戻ります。11-14節です。

「13:11 あなたがたは、今がどのような時か知っているのですから、このように行いなさい。あなたがたが眠りからさめるべき時刻がもう来ています。というのは、私たちが信じたころよりも、今は救いが私たちにもっと近づいているからです。13:12 夜はふけて、昼が近づきました。ですから、私たちは、やみのわざを打ち捨てて、光の武具を着けようではありませんか。13:13 遊興、酩酊、淫乱、好色、争い、ねたみの生活ではなく、昼間らしい、正しい生き方をしようではありませんか。13:14 主イエス・キリストを着なさい。肉の欲のために心を用いてはいけません。」

ここで注目したい点はいくつかあります。まず、クリスチャン生活にあっても眠ってしまい、古い罪の習慣に逆戻りしてしまうことがあることです。使徒パウロは「目を覚まさない」「眠りから覚めるべき時が来た!」と言っています。今はどんな時なのでしょう？神との最後の清算の時が日々近づいているのです。昨日よりも今日はもっと近づいています。あなたのクリスチャン生活はどうか？キリストのために生きることについていい加減になっていますか？怠けてしまっていますか？過去の罪のパターンに戻っていませんか？目を覚ましてください！

12節、夜はもはやふけて、昼はもうすぐそこです。今こそ、やみのわざを「打ち捨てる」時です。古い罪や悪い習慣を「打ち捨てる」のです。私たちは新しい衣装を手に入れました。それは単なる新しい上着ではありません。パウロは「光の武具を身につける」よう勧めています。12節は武具、つまり戦いのための装備と言っていますね。戦うべき戦いがあるということです。それは罪深い欲望との戦い、そして他者に福音を伝える戦いです。まず、私たちは自分の人生をきれいにし、やみの行いを捨てなければなりません。そうすれば世の光となることができます。光の武具を身につけましょう。

マタイ 5:14-16 「5:14 あなたがたは、世界の光です。山の上にある町は隠れる事ができません。5:15 また、あかりをつけて、それを柁の下に置く者はありません。燭台の上に置きます。そうすれば、家にいる人々全部を照らします。5:16 このように、あなたがたの光を人々の前で輝かせ、人々があなたがたの良い行いを見て、天におられるあなたがたの父をあがめるようにしなさい。」

16節「このように、あなたがたの光を人々の前で輝かせ、人々があなたがたの良い行いを見て、天におられるあなたがたの父をあがめるようにしなさい。」もしも古い慣習に戻ってしまえば、福音を広める効力を無にしてしまいます。

武具についてももう少し見てみましょう。

テサロニケ第一 5:7-8「5:7 眠る者は夜眠り、酔う者は夜酔うからです。5:8 しかし、私たちは昼の者なので、信仰と愛を胸当てとして着け、救いの望みをかぶととしてかぶって、慎み深くしていきましょう。」

胸当てと、かぶとの二つの武具があります。パウロが言うところの「信仰と愛の胸当て」そして「救いの望みのかぶと」です。信仰、希望、愛...どこかで聞いたことがありますね。「愛の章」として有名なコリント第一 13章の最後、13節にこうあります。

「こういうわけで、いつまでも残るものは信仰と希望と愛です。その中で一番すぐれているのは愛です。」これが私たちの生活に示されるべき根本的性質、信仰、希望、愛です。

ローマ 13章に戻ります。

「13:13 遊興、酩酊、淫乱、好色、争い、ねたみの生活ではなく、昼間らしい、正しい生き方をしようではありませんか。」

しっかりと歩みましょう。クリスチャンは夜ではなく、昼間に歩きます。人々が夜に好んで行うような行いに手を染めてはいけません。まず13節で、パウロは、遊興と酩酊に興じてはならないと言っています。アルコールや薬物など、あらゆる物質乱用のことです。関与してはいけません。

第二に、淫らな欲望を抱かないことです。姦淫、姦通、ポルノなど、間違っただ性的欲望に溺れてはいけません。そのような汚れたものには近づいてはいけません。最近の情報によると、インターネット検索の25%がポルノに関連しているそうです。そのようなものから離れましょう。それは心を混乱させ、間違っただ場所にあなたの情熱を向けるでしょう。

第三に、争いやねたみのうちに生きることはやめましょう。

ヤコブ 3:13-16「3:13 あなたがたのうちで、知恵のある、賢い人はだれでしょうか。その人は、その知恵にふさわしい柔和な行いを、良い生き方によって示しなさい。3:14 しかし、もしあなたがたの心の中に、苦いねたみと敵対心があるならば、誇ってはいけません。真理に逆らって偽ることになります。3:15 そのような知恵は、上から来たものではなく、地に属し、肉に属し、悪霊に属するものです。3:16 ねたみや敵対心のあるところには、秩序の乱れや、あらゆる邪悪な行いがあるからです。」

不調和は心から始まります。ねたみや敵対心を行動のうちに表してしまうなら、人間関係に不調和を持ち込むことになるのです。

ローマ 13章 14節にある今日のテーマに戻りましょう。

「13:14 主イエス・キリストを着なさい。肉の欲のために心を用いてはいけません。」肉とその欲を満足させてはいけません。

主イエス・キリストを着ましょう。光の武具を身に着けましょう。光の子となるのです。あなたの光を輝かせましょう。あなたがクリスチャンであることを世に知らせましょう。クリスチャンが歩むように歩みましょう。

人生を歩む上で、私が罪深い欲望と戦うのに役立つと思ったイメージを紹介しましょう。これまで、キリストを衣のように「着る」ことについて話してきました。もう一つ役立つイメージは、イエスと腕を組んで歩くというイメージです。私はいつもイエスと腕を組んでいる自分を想像します。どこへ行くにもイエスが一緒です。何を言うにもイエスが聞いておられます。何をすることもイエスを見ておられます。そして、もし私が罪の領域に向かおうとしたなら、イエスが私と腕を組んでいるのを思い起こすのです。立ち入り禁止だと知っているはずのその領域に、私はイエスを引きずり込もうとしている、イエスを連れていく。イエスは私の行いの証人になっている...恐らく私が何をすることもイエスを伴っていることを意識していると傍から見てもわかるのではないか。もし、クリスチャンでない人が近くにいて、それに気づいたらどうだろう？イエスと腕を組んで歩くというこのイメージは、私が疑わしい行動から立ち去るのを何度も助けてくれました。

コロサイ 3 章を見てみましょう。5-10 節です。

「3:5 ですから、地上のからだの諸部分、すなわち、不品行、汚れ、情欲、悪い欲、そしてむさぼりを殺してしまいなさい。このむさぼりが、そのまま偶像礼拝なのです。3:6 このようなことのために、神の怒りが下るのです。3:7 あなたがたも、以前、そのようなものの中に生きていたときは、そのような歩み方をしていました。」

7 節をもう一度。「7 あなたがたも、以前、そのようなものの中に生きていたときは（これが古い生き方です！）、そのような歩み方をしていました。」

「3:8 しかし今は、あなたがたも、すべてこれらのこと、すなわち、怒り、憤り、悪意、そしり、あなたがたの口から出る恥ずべきことばを、捨ててしまいなさい。3:9 互いに偽りを言うてはいけません。あなたがたは、古い人をその行いといっしょに脱ぎ捨てて、3:10 新しい人を着たのです。新しい人は、造り主のかたちに似せられてますます新しくされ、真の知識に至るのです。」

9 節-「あなたがたは、古い人をその行いといっしょに脱ぎ捨てて」古い、汚れた服を脱いだのです。ゴミ箱にそれを捨てましょう。そして....

10 節-「新しい人を着たのです。」新しい人は、「新しくされ」ました。それは私たちが生きるべき新しい生き方です。世に対して見本となるべき、新しくされた生き方です。信仰、希望、そして愛です。

さて、今日のメッセージのネガティブ面、つまり、私たちが古い生活を捨て去ることを常に意識しなければならないことについては、十分に説明できたと思います。

では、今日のメッセージのポジティブ面、つまり、主イエス・キリストを身にまとい、主の光を世の中に映し出す者となる生き方について見ていきましょう。

コロサイ 3 章を続けます。10 節は既に引用しましたね。

「3:10 新しい人を着たのです。新しい人は、造り主のかたちに似せられてますます新しくされ、真の知識に至るのです。」

11 節から 14 節に、新しいクリスチャンの共同体について見ることができます。

3:11 「3:11 そこには、ギリシヤ人とユダヤ人、割礼の有無、未開人、スクテヤ人、奴隷と自由人というような区別はありません。キリストがすべてであり、すべてのうちにおられるのです。」

ここでは、キリストの下、誰もが平等です。私たちは皆、神に似せて造られ、神は私たち皆に悔い改めと信仰を呼びかけています。そして、私たち全員を一つにしてくださいませ。初代教会時代の数世紀、非クリスチャン社会がクリスチャンについて注目したことの

一つは、彼らがしばしば一緒に食事をし、社会階級に関係なく異なる人々が一緒に交わっていたことでした。それは、当時の社会では革命的な発想だったのです。

黙示録 5 章にある、私たちの罪のいけにえ、神の子羊、イエスに対して歌われた歌が私は大好きです。

ヨハネの黙示録 5:9-10 「5:9 彼らは、新しい歌を歌って言った。「あなたは、巻き物を受け取って、その封印を解くのにふさわしい方です。あなたは、ほふられて、その血により、あらゆる部族、国語、民族、国民の中から、神のために人々を贖い、5:10 私たちの神のために、この人々を王国とし、祭司とされました。彼らは地上を治めるのです。」

あらゆる人々が神の御国の者となります。-現代の教会時代においても、後のキリストの御国においても。

コロサイ 3 章のキリストを着るというテーマに戻ります。

3:12-14 「3:12 それゆえ、神に選ばれた者、聖なる、愛されている者として、あなたがたは深い同情心、慈愛、謙遜、柔和、寛容を身に着けなさい。3:13 互いに忍び合い、だれかがほかの人に不満を抱くことがあっても、互いに赦し合いなさい。主があなたがたを赦してくださったように、あなたがたもそうしなさい。3:14 そして、これらすべての上に、愛を着けなさい。愛は結びの帯として完全なものです。」

私たちは神に選ばれた者であり、聖なる、愛されている者です。私たちの生き方とこの場所、キリスト教会における人間関係を、深い同情心...慈愛...謙遜...柔和...寛容、互いに赦すことで特徴づけましょう（主があなたを赦されたことを覚えましょう）。14 節「そして、これらすべての上に、愛を着けなさい。愛は結びの帯として完全なものです。」

もう一つ私の好きな聖句を紹介します。クリスチャンのしるしについての聖句です。ヨハネ 13:34-35 「あなたがたに新しい戒めを与えましょう。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。35 もし互いの間に愛があるなら、それによってあなたがたがわたしの弟子であることを、すべての人が認めるのです。」

私たちがクリスチャンであることを世が知るのには、この互いに愛し合うというしるしによってなのです。

私たちは新しい衣を着ました。それぞれキリストを身にまとい、周囲の人が私たちの行動や言葉遣いでキリストの弟子であることを見分けられるべきなのです。

そして、私たちは光の武具を身につけました。私たちの生活や証も、周囲のノンクリスチャンの世界から見えるところで輝いているべきです。

そして、私たちは新しい共同体を手に入れました。私たちの互いへの愛と私たちの一致によって、私たちが主イエス・キリストの弟子であることを世が知ることができます。

次の部分では、また新しいことを話します：「新しい心を持つべきである」

先月もお話ししたことですが、今日は私たちの心を新しくすることに焦点を当てます。

エペソ 4 章をもう一度見てみましょう。また少しだけネガティブ面に戻ります。

17-20 節「そこで私は、主にあって言明し、おごそかに勧めます。もはや、異邦人がむなしい心で歩んでいるように歩んではなりません。18 彼らは、その知性において暗くなり、彼らのうちにある無知と、かたくなな心とのゆえに、神のいのちから遠く離れています。19 道徳的に無感覚となった彼らは、好色に身をゆだねて、あらゆる不潔な行いをむ

さぼるようになっていきます。20 しかし、あなたがたはキリストを、このようには学びませんでした。」

17節-未信者が歩んでいるように、むなしい心で歩んではなりません。

18節-彼らは、その知性において暗くなり、無知と、かたくなな心を持っています。

20節-しかし、あなたがたはキリストを、このようには学びませんでした！当然、肉欲的な方法を追い求め、心を暗くし、かたくなな心を持ったままでは、キリストの道を学ぶことはできないのです。

次は22-24節です。

「その教えとは、あなたがたの以前の生活について言うならば、人を欺く情欲によって滅びて行く古い人を脱ぎ捨てるべきこと、23 またあなたがたが心の霊において新しくされ、24 真理に基づく義と聖をもって神にかたどり造り出された、新しい人を身に着るべきことでした。」

22節-古い人を脱ぎ捨てる

24節-新しい人を身に着る

そしてその間にあるのが23節-「心の霊において新しくされる」

心の霊において新しくされなさい

それは思いから、心から始まります。イエスは次のように言っています。

マタイ 12:34-35 「12:34 まむしのすえたち。おまえたち悪い者に、どうして良いことが言えましょう。心に満ちていることを口が話すのです。12:35 良い人は、良い倉から良い物を取り出し、悪い人は、悪い倉から悪い物を取り出すものです。」

マタイ 15:18-19 「しかし、口から出るものは、心から出て来ます。それは人を汚します。19 悪い考え、殺人、姦淫、不品行、盗み、偽証、ののしりは心から出て来るからです。」

細心の注意を払って自分の心を見張らなければなりません。

箴言 4:23 「4:23 力の限り、見張って、あなたの心を見守れ。いのちの泉はこれからわく。」力の限り、見張って、あなたの心を見守れ。いのちの泉はこれからわく。

箴言は、生きていくための知恵に満ちています。

箴言 23:19 「23:19 わが子よ。よく聞いて、知恵を得、あなたの心に、まっすぐ道を歩ませよ。」あなたの心に、まっすぐ道を歩ませよ。

箴言 28:26 「28:26 自分の心にたよる者は愚かな者、知恵をもって歩む者は救われる。」自分の心に頼ることなく、知恵に歩みましょう。

正しい道。知恵をもって歩む。この知恵はどこから来るのでしょうか？箴言の最初の章を見てみましょう。

箴言 1:7 「1:7 【主】を恐れることは知識の初めである。愚か者は知恵と訓戒をさげすむ。」創造主である神を恐れることから始まります。【主】を恐れることは知識の初めです。そしてそこから知恵と訓戒が生まれるのです。

詩篇の最初の部分を見てみましょう。

詩篇 1:1-3 「1:1 幸いなことよ。悪者のはかりごとによらず、罪人の道に立たず、あざける者の座に着かなかつた、その人。1:2 まことに、その人は【主】のおしえを喜びとし、昼も夜もおしえを口ずさむ。1:3 その人は、水路のそばに植わった木のような。時が来ると実がなり、その葉は枯れない。その人は、何をしても栄える。」

ここに敬虔な生活の秘訣があります。昼も夜も、神のおしえをくちずさむこと、神の御言葉、聖書をくちずさむこと。神の御言葉で心を満たすのです。主を恐れ、知恵をもって生きることです。

ローマ 12:2 「12:2 この世と調子を合わせてはいけません。いや、むしろ、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に受け入れられ、完全であるのかをわきまえ知るために、心の一新によって自分を変えなさい。」

コロサイ 3:2 「3:2 あなたがたは、地上のものを思わず、天にあるものを思いなさい。」

私たちの心は、変えられ、新しくされなければなりません。神のもの、上にあるものに心向けなければなりません。私たちは今、キリストに属しています。ですから、私たちが考えること、言うこと、行うことの中で、キリストを敬う必要があるのです。

ピリピ 1:27 「1:27 ただ一つ。キリストの福音にふさわしく生活しなさい。そうすれば、私が行ってあなたがたに会うにしても、また離れているにしても、私はあなたがたについて、こう聞くことができるでしょう。あなたがたは霊を一つにしてしっかりと立ち、心を一つにして福音の信仰のために、ともに奮闘しており、」

新しい生き方。新しい心。新しい共同体、一致して生きる。世の光となる。新しい衣服、つまり光の武具を身につけ、主イエス・キリストご自身を身につけるのです。

今日のメッセージの最後に、私が大好きな短い詩を紹介しましょう。皆さんは四つの福音書があるのは聞いたことがあると思います。「マタイによる福音書」「マルコによる福音書」など。この詩は「あなたによる福音書」という題で、アーサー・マクフィーという人が書いたものです。

あなたによる福音書

マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネの福音書は
多くに読まれているが
最も多く読まれ、批評されているのは
あなたによる福音書。

あなたは毎日 1 章ずつ福音書を書いている。
その行動、発言によって。
人はあなたの書いたものを読む。
それが不実であっても真実であっても
あなたによる福音はどんなものだろう。

あなたの人生から、人は神の真理と愛を読み取ることができるだろうか。
それとも、悪意と争いに満ちた様子を見るだろうか。
あなたの人生が語るのは...悪か、真理か。
あなたによる福音はどんなものだろう。

アーサー・マクフィー